

GIGAスクール構想で 変わる芦屋の「学び」

子どもたちが、1人1台のタブレット端末を持ち授業を受ける。いま市内の小中学校では、ICT（情報通信技術）を活用した教育が行われています。芦屋市では、各教科のさまざまなシーンで、子どもたちはスムーズにタブレットを操作しながら楽しく学んでいます。ネットワークを介して、白浜（和歌山）アドベンチャーワールドの飼育員さんやニュージーランドのワイヌイオマタハイスクールの生徒とコミュニケーションを図りながらの授業などの取り組みを進めています。ICTの活用により、子どもたちの学びの機会を豊かにしています。今回は、打出浜小学校で行われているICTを活用した授業を取材しました。



GIGAスクール構想でなにがどう変わる？

子どもたちの 「学びの広がり」と一人一人にあった学習を目指して」

GIGAスクール構想によって、「一斉授業」では一方向から双方型に、「個別学習」や「協働学習」なども、子どもたちの個性や能力に合わせて最適な指導が行える授業へとさらに変わっていきます。



一斉授業では

教師が授業中に一人一人の反応を把握するために、ICTを効果的に活用し、よりきめ細やかな子どもたちの反応をふまえた双方向型の一斉授業が可能となります。



個別学習では

個々の理解度に応じた学習に取り組み、それぞれの学習履歴が記録できます。一人一人に必要な学習や状況に応じた個別学習が可能となります。



協働学習では

一人一人の考えをお互いにリアルタイムで共有することができ、双方向の意見交換が可能になります。各自の考えを即時に共有し、多様な意見にも触れることができます。

GIGAスクール構想で変わる「これからの学び」

これまで、芦屋市では子どもたちが基礎的・基本的な知識・技能と主体的に学習に取り組む態度などを身につけるため、自ら課題を発見し解決する力、他者と協働するためのコミュニケーション能力、物事を多様な観点から論理的に考察する力などの育成に取り組んできました。

今後もこれらの学びを継続して、1人1台の学習用端末等のICTを活用しながら、主体的に情報を収集・比較・選択し、効果的に表現する等の情報活用能力の視点を取り入れた授業を進めます。

1人1台の端末を利用してできること

学校では

- ▶ 授業支援ソフトを利用した協働的な学習
- ▶ カメラ機能を活用した学習記録作成・情報収集
- ▶ Web会議システムを活用した学校外施設とのリモートによるオンライン授業など

家庭では

- ▶ デジタルドリル教材を用いた宿題や個別最適な自主学习
- ▶ インターネットブラウザを利用した課題解決に向けた情報収集
- ▶ 動画アプリを利用した事前・事後学習など

